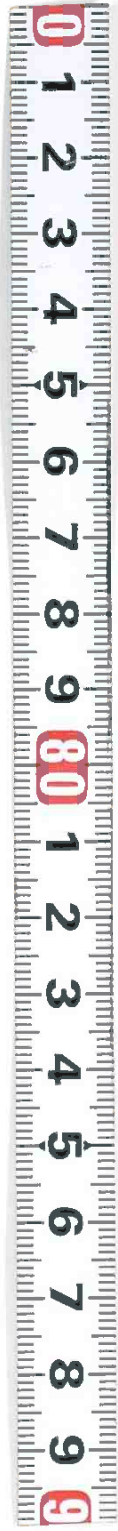




十一卷

十一
村名

291
7
1-11



三河志十一

碧海郡村名

大溪 高井 高家 上留 古井 中名 川邊 中根

柏尾 三木 下留 高使 福相 上青野 小川 城ヶ入

磐塚 本戸 中細 法性寺 下青野 合観本 寺領 東端

若津 中鴻 井内 牧師堂 赤根 高島 野寺 西端

三河 濱邊改番輯録

改番日今の地理に依るハ要序にハ
三河にハ帳の法牙を扱ヒ〜〜〜
後世に倣ハ



A295 A291
1-11

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 川野 | 赤牧 | 厚紙 | 宗定 | 濱井 | 愚孫 | 井谷 | 泉田 | 中野 | 三島 |
| 櫻井 | 佐木 | 中葦 | 山中 | 中崎 | 浮岩 | 一色 | 今是 | 熊村 | 三原 |
| 古井 | 村高 | 久保 | 森鐵 | 中切 | 宮口 | 南西 | 駒場 | 高津 | 吉原 |
| 海内 | 鳴 | 渡 | 橋目 | 川端 | 大森 | 山手 | 馬場 | 小山 | 山手村 |

| | | | | | | | | |
|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| 池沼 | 菅井 | 大友 | 上野 | 琴鴨 | 三吉 | 池野 | 重永 | 泉 |
| 藤岡 | 為牧 | 中平 | 上野村 | 灰津 | 打鐵 | 東邊 | 龍池 | 榎前 |
| 長岡 | 桑子 | 西川 | 馬場 | 河津 | 中地 | 堤 | 一本 | 高柳 |
| 矢田 | 為生 | 富永 | 栗寺 | 國江 | 古橋 | 明和 | 八橋 | 野田 |

| | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 荊屋 | 牛田 | 東邊寺 | 今村 |
| 里村 | 荻屋 | 若林 | 乙尾 |
| 竹村 | 小針 | 棟橋 | 宇領 |
| 西別所 | 東別所 | 別江 | 新橋 |
| 表出 | 板戸 | 上條 | 山橋 |
| 三木 | 尾倉 | | |

柏原郡部 之湯 渡邊政吉輯録

按柏原海村より西きり郡名形之下一後大柏原海村より北
 地味名或曰巨海村と云かこつて巨海八幡宮の因名に
 いふありん古郡と入交りきりて今も柏原海村の境より大
 橋より 倭名抄御名御名海河平美

古事記傳特異 伊波礼之若櫻宮 天皇 聚葛城之曾都昆之
 子葦田若祢之女名黒比賣命生御子次妹青海島女亦名飯豊
 郎女

傳曰之河内郡柏原郡阿字美ふとあり

回車記 八巻 青海白皇女

姓氏錄云御立史氣入彥命後也持統天皇御代依君參
列青海郡御立地賜御立史姓

按三右書三撮レハ古ハ青海郡ト書スル方ト思ハレ

北海郡高
七萬八千七十石之斗二年八合

二葉稻帳共同

田

三子石拾石二年斗二合
三子石八石四年斗二合
三子石八石七年斗二合

青林院
中子石拾石
長崎院

三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合
三子石拾石九年斗二合

松平大直院
松平直教院
松平直信院
松平直信院
松平直信院
松平直信院
松平直信院
松平直信院
松平直信院
松平直信院

三石

車多馬由

三河境云明石海島自海道南村總錄

平七郎

伏見屋

大浜

志貴及隣丑方至大浜
華屋五里半

柳尾儀

三浜

三島

高須

常福

勢原

赤津

中根

城久

泉

榎前

赤松

福谷

三稻

吉原

山田

野田

生田

表福

長壽

並目

八田

堂原

並目谷

荇谷

概下三條尾川海二十五丁
良方至此程約一里半

荇村

概下三條尾川海二十五丁

三津波

小山

後三條尾川海二十五丁

筑地

一本

泉田

概川方川海二十五丁
合三津海入

藤井

野寺

寺領

堀之内

櫻井

小川

本戸

大丁

河橋

川野

坂戸

村

鳴

立出

古井

安城

或安條
安祥

三條

山崎

大島

三木

八村

新堀

小笠

古馬生

池端

佐米

或佐侍

素子

牧内

東西

富永

別台

別和

中島

東西

筒井

酒

自川東之村

後井 二葉松上高島

合飲水 武藏水

福桶

青野木

中之廊

布浪

牧郎堂

古井

和田

井内

野畑

古泉

坂倉 二葉松上高島

國正廟 二

二本寺 二

古畑 二葉松上高島

中河

小巻 中河

中村 浦田

定國 二葉松上高島

正名 川之浦田

街道之在村

今圃 逆平川至尾

池程齋 古知之

平田

東延寺

今村

大原寺

尾崎

実 自是良當

堤の智 尾崎田 佐橋寺 寺々

是後

夫他 或夫別

自街道北之村里

堤

井ヶ谷

駒場

堤

乙尾

差林

花室

橋

里

大友 車田長庚

中葦 月

船越 月

小針 月

横崎 月

橋目 月

森越 月

北野

馬場

上村 野上

下村 月

藤松寺

國江

栗寺

宗定 字野上

中切 月

川陽 月

中河 月

阿活泥堂

配津

濱井

岩野

大林

竹村

以上百谷村

春雨吐百谷村

信忠云
武田大内記ニ永享二年壬午
家臣多叛シ大内氏ヲ
令没命是武田氏ノ志ナリ
氏ノ存スルノ志ナキ故ニ云
後風大内云石川左近右衛門
御ノ忠告ニ依テ

依忠云ヲ大内御前内侍居
下ノ志有テ亦所ラ生カ
送ケ給ヘシ事探四年丙申七
月廿七日彼所ラ遊云
法名安祥院教養孝直忠
大居士

後風大内云石川年七帝
政康ハ其母コト名所シ女
加子ヲ生ヨリ向ハ大内氏
之ハ海チヨリ徳ノ御子ハ
今川ノ旗下ナリ岩園氏居
トモ者誠田チヨリ忠
志ノコト海チヨリ教スル
因ナリテ我ノ歌侍居
之河ノ其良族居子平
倉田志ヨリ法川橋云大
内忠志トテ教ト云云
下署ス

創業派 一巻

十月大三日永井安左ヲ
尚家ニ奉ス

彌向三洲大内氏相控ノ
トヲ司トルト云其子

新八郎公家時因テ内
貢稅ヲ少侍ス

同廿五巻 十二日

上田兵庫元俊奉ス全案

是人亡父万五郎元次ハ

清康君ニ仕フ元俊カ其ハ

石川安藝守清兼カ娘ニ

元俊ハ三洲額田郡明本寺

合戦ノ時ニ廣忠君ノ

先鋒トシ松平義詮考

ヲ討取シ大功ヲ顯シ大内

ニ於テ恩録ヲ得ケリト云

日本外史 十三巻

收年位長始將兵入河

攻今川氏屬城 吉良良俊

縱大而度

放散

放散

城地之部並古屋補出坐村等
大濱

古河の古屋拾七年八年七年

日

△創業派一巻 天文十六年

古石

織田信秀ノ子三良俊長

整石穿系各

十四年初孫元光六平手

拾七年九年

中務政秀等ヲ率テ西三

拾七年九年

河ニ出張ス紅竹助ノ次中

古石

同狛狹金ノ馬鎧等其

拾七年九年

裝美兩兼也吉良大濱ヲ

古石六年九年

宗中朝代

拾七年九年

妙有寺代

古石七年

沙書屋代

古石八年

善法院代

拾七年九年

常法院代

古石九年

如法院代

大濱村新田 天王 道場心 齋齋 松竹 信虎 之孫 六村

古石十年 半之物 必あり 幡を 揚ぐる 遷る 云

古石 柳無氏 信下 之次 之野 強之 弟 天守 年中 松平 文虎

因云 古屋 元年 十二巻 北条 高村 於 古石 七年 天守 あり 古屋 代の

陸奥に云徳河原の事云々又長
河原の事一外三軒形并時言
六出内出等事三川
大坂ニホリクハ吉良今
川ハ徳河原なる事一
内出由徳川ハ内物りて
内兵起の内を三ヶ
一として内出内物り
と云徳川世に於て
幸り以上三川堤ノ説
神武創業録ハ也

天正四年八月大

愛三和名徳河原ヨリ躍リ權
ニテ思傍ニ来リ其中ニ七八
歳ノ美童大數堪能ニテ
信康君鐘愛不淺是ハ
大坂ノ地土長田平吉重
元カ子傳八郎由勝ノ幼
ヨリメハ父愛統ナレバ洛陽
ノ鑑ニカアル者ヲ呼下
師トシテ習ハレム其上登
的ニテ字ヲ好ムト云

伝康君彼姓名ヨ同王ト
並位下成シテ
後三永井氏ニ改メ右近
太夫トシテ
日麻十世ノ神君ヨ子備
前七世孫弟職ニテ待奉
ル故ニ彼ノ大船ヲ召ク冬
及物右海形大坂ニ御居
也大坂ノ地土長田平吉
重カ力亭ニ入御業力又
度由ハ 廣忠君ニ通レ
大坂ノ邑 上官社田ヲ食
由カカ物男ハ由也

天正七年八月三日
信康君ヨ大坂ノ御ノ遷
至フ日九日迄居玉フ

石ノ事ハ石ノ事云々首等ト稱一
以石ノ事ニ成ると云是物也
一あり

芳治次ノ事ハ云云石ノ事云々
石ノ事云々

次水井傳八弟直勝 城ノ傳當村ノ名ヨ永井平吉ノ子也
信康君ト始ク奉仕ス

永井由及ノ傳 中代平成天ヨヨヨ子阿保親重九代後流
正位權中納言匡房卿ノ代正位下陸奥守大正廣元ノ代

正位下甲斐守永井宗光九代後流長田平吉重元ノ子
之祖中納言宗光ノ北孫ヨ付職之 後平吉孫孫流流々
由家内表記云宗光ヨ子平吉長田平吉重元ノ代云々
之別大坂村ニ由 進進ト切從ク由由由尚礼世ノ最中ナハ
後邑ヨ迎御ヨリ採取ラテ飲ス重元無友武威ヲ震ヒハ氏ヨ
育ニテ終ニ後村ノ上官ヲ引ルト云

○重元
武鑑ハ長田平吉重元射直者トアリ 按ニ半平何レカ傳字誤ナリ
長田傳八 後改永井 後改位下右近大夫

直勝

武鑑ハ長田平吉重元射直者トアリ 按ニ半平何レカ傳字誤ナリ
長田傳八 後改永井 後改位下右近大夫

創業録 十九卷 文禄四年
二月廿日 神君ノ號士永井
傳八布並傳五石石ノ領
秀吉公ノ命ヲ受テ豊臣ノ
姓ヲ授リ從五位下右近大
夫ト成リ 是長久手軍ニ
秀吉公方ノ謀將池田
傳八ヲ討取テ其勇ヲ賞
セリ也ト云云 誠ニ英勇
ノ心ヲ攬云者乎
同 手巻 卷之長二年 丁酉十
月 廿日 永井安在 尚家
率領 三冬之ヲ大坂 祖稅
ノコトヨリト云 其子 初八
年ハ尚家 園内 内真稅
ヲ沙汰ス
日本外史 十九卷
於是其父兄相告 謀謀入
伊勢 自白子 浦上 舟七日
達 於冬之 後入 永井 忠
尚家 將士 迎賀 下略

尚家盛衰記云 尚家之弟 信康 卿 確ヲ好ミ 玉下町ノ近在
ノ踊ヲ見物ト至ヒテ 其音無ト擗ヒ 玉下直衛十五氣村中ノ
去氏ヲ引連レ 尚家ノ地内ノ今ノ踊ヲ多集ハスル 容赦
莫ク 命ヲ奪ル 其之ヲ報ノコト多ク 何極 其害 後ト者ノ少
也 其ノ以 尚家ノ弟 信康トシテ 先祖ノ家 妻 池田ト云ハ
去リヨリ 上テ 尚家ノ弟 信康トシテ 其時 命ヲ奪ル 永井ト名
テ 予ケル 信康ノ弟 信實トシテ 大 神君 被ル 出 海 初
ト 初ル 乃 天正十二年 長久手ノ合戦 池田 傳八ノ討
テ 下リ 名ト 奪ル 其 後 信實 亦 命ヲ奪ル 常陸 國 同ノ
城 之 下 信實 七 万 石 賜 其 後 下 信實 國 在 河 城 ヲ 賜

日本外史 卷十三
明年 信長 始 將 兵 入 冬
河 攻 今 川 氏 屬 城 吉 良
大 演 縱 火 而 還
尚家 紋 記 抄 卷一
永井 紋 所 三三三 星
尚家 大 江 廣 元 別 後
三 洲 長 田 三 往 居 ス 今 下
永 井 氏 是 依 テ 毛 利 卜
曰 紋 所 三三三

女子孫級系茂スルヲ知 尚家 信實 家系 之 河水 三 氏 合

- 白元 長田 津 在 尚
後 永井 尚家
- 直元 永井 津 在 尚 傳八
- 正元 永井 左 兵衛
- 經元 永井 左 兵衛
- 勝元 永井 左 兵衛

- 尚政 永井 信實 從五位下 侍從
定永十一年 二万石 賜 在
山 國 國 臣 賜 所 加 判 列 加 三
万 治 元 年 隱 居 願 号 信 守
- 直清 日向 尚
父 尚 一 万 石 配 分
- 直真 尚時 東 市 正
豐 前 守 直 子 四 對 馬 守
- 直重 本 初 左 衛

- 尚征 從五位下 右近 大夫
父 尚家 督 讀 七 万 石 領
- 尚唐 白 賀 守 四 品
二 万 石 分 知 京 都 諸 司 代
- 尚冬 甲斐 守
七 千 石 分 知
- 尚主 佐 後 守
六 千 石 分 知

- 尚房 御 中 弟 督 後 於 死 之 後
忠 所 三 十 横 死 セ ラ ル
- 尚長 信 長 五 年 庚 申 五 月 八 日
於 湯 長 内 殿 被 殺 尚 家 忠 信 之
后 三 横 死 ス 是 日 湯 三 依 テ リ 故 三
永 井 ノ 嫡 流 斷 絶 ス

尚保

大和守 二子石分知 皇孫父尚政種 依テナリ

直圓

万之丞 終少将 見尚長後死ノ和領知不殘 乃石之御下モ亦井家ノ可捨ニ 非ト初規二万石ヲ得テ後三領 知三也

直敬

伊賀守 當時二万石ヲ領ス

國家異妻孫 永井系云

○平城天皇仁代大江音人

從三位參議 左大弁

千古 從四位下兼式部大夫

十代廣元

二男 時廣 齊高村

宗光

齊高村

重元 長田平右馬

直勝

傳八弟右近大夫

倭和抄幅原形御名大殯 下 大濱ノ記セリ

忍按中史略 後奈良天皇 天文六年 信長初率兵出

冬之奈良之後 放久而還云

古歌アリ 古歌歌詠ノ記ス

按御外戚傳云 大橋和泉守定安男廣政 長田氏系之別

大濱城之為長田平重元改廣政子

廣政男長田平重元 重元男長田傳八弟直勝 後改永井 右近大夫

白元 長田於左門後号永井 監物

長田領分記云 天野孫七之後 二五十五石 治部左衛門判

天文十九年十二月十一日 云 長田孫七後ノ分ノ記アリ

三川堤云 當村山守 藤井隼人

田云 小澤瀨兵衛

津村

三ノ八ノ八拾五石四斗八升七分

中多子徳重氏

武徳系津村中ノ河
左馬次友永揚奴
味方系名義ハ元永三年
十二月廿二日ナリ

日村直成

津藤系又延壽日友新揚奴法名津心掃官

中多子政信氏慶孫於味方系討死イ後友永氏ナリニ云ナク

巨魁吐云津藤一白一揆時或討取人ナリ存相林ニテ遊居アリ

河川津津河月存アリ定之ニ其ノ事ナリ小倉氏ナリ津藤中多

直ノ事ナリナク相取立様ニテ津藤ノ事ナリ其ノ事ナリ

川橋ノ事ナリナク津藤ノ事ナリ津藤ノ事ナリ

津藤ノ事ナリナク津藤ノ事ナリ津藤ノ事ナリ

津藤ノ事ナリナク津藤ノ事ナリ津藤ノ事ナリ
津藤ノ事ナリナク津藤ノ事ナリ津藤ノ事ナリ
津藤ノ事ナリナク津藤ノ事ナリ津藤ノ事ナリ

○津津道壽

後友永

勝政

後友永後友馬次

武家ノ系者以テ慶辨ト在リ

政信

小大夫

味方系ヲ討死ス

田政

島兵衛ニ列生ス

梅千之助

大神君奉仕

清右衛門

大神君奉仕

田盛

從五位下 出陣
當付一万余石 武徳系長瀬領
一万余石

津藤系ニ川水ニ委リテス

藩梅修考 後井伊守

源信一は出雲守長長を就

その子孫とす天長四年利長

の子あり利長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

の嫡子なり長長は出雲守

後井村

信一は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長領

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

長長は長長の子なり

利長 彦四郎安祥討死

義春 是太郎 東条

信定 内膳正 櫻井

親盛 右京進 福金

信忠 秀人

親氏 徳川三郎 松平太右衛門

泰親 松平太右衛門

信光 和泉守

親忠 左衛門

長親 山守

信一 是四郎 伊豆守 四品 大神君 奉侍 忠誠 功 劾 不 計 奉 諸 所 戰 場 御 供 之 功 諸 書 奉 安 正 十八年 關 東 御 入 國 時 上 列 布 川 五 十 石 賜 慶 長 五 年 關 東 原 役 三 功 有 依 テ 常 州 土 浦 城 三 万 五 十 石 賜

信吉 是四郎 伊豆守 安八櫻井 五三郎 忠吉 男ナリ

信久 伯耆守 早世

信之 日向守 從四位 父家督 繼 分 石 賜

信重 志守 信定 近江守

第3又安土見記より信長乃
くはら其れ他政家と
て一い交家の功もせんと
たかひ一信長の死のやう
ては八代とて秀吉の所
わく信が功もたぬ久保
そ何の人少く記せしむれは
その能は低く記す○又此
位も徳川家との水加勢多
くして信長は又信一も男
多しといはれ信長は其れ
は政政家とせんはせしむ
いふ川も忽ち政政家と
いふも一又織田家流も其れ
は家流も一十八ヶ所の城も
あつて其れ他流も一十八ヶ
あり一つとていふあり一
いふ一力有りたぬは一
通年もある一織田家は
やあつた信一も年々二
かつたこといふ一信のわ
り

忠国

山城守 台徳公奉仕の御諱ヲ賜
五万石賜又七万石成レ

忠美 圖書

忠明

伊賀守
後忠晴

忠勝

伊賀守忠昭に
別五万石ヲ賜フ

忠共

帯刀

忠之

日向守八万石ヲ領
元禄年中有故配流
故家名斷絶ス

忠俊

伊賀守當時五万
石右妻三川水出

信只

善右衛門

信道

越中守忠配流
後新三万石
賜當時三万石
三川水出

○杉平隆盛也

古傳の中記に
信長が

其れ他の御政家一
なるの推察する
はらへり
たり

二本村

二本村の石七ヶ所

高橋領

高橋

高橋は清和天皇の御孫に
なりし高橋は清和天皇の御孫に
なりし高橋は清和天皇の御孫に
なりし高橋は清和天皇の御孫に

二本村

二本村の石七ヶ所

高橋領

石川

石川武部

石川武部

石川武部

石川武部

石川武部

石川武部

同後九郎 後者左衛門 集之三三歳入人々尾家等住ラニ方石ヲ編
同室方山城等住 妻ヲ三川水ニ出ツ

中宿村

高石屋拾石八半之系

内伏

高石

伴孝右介

拾石

長島右介

高石

高橋右介

拾石

神明左

拾石

小笠原神助

創業神 老 松平大牧助
好宗ヲ首將トシ八右衛門中宿
城ニ板倉澤ニ守定ヲ攻ム

由良大太郎光兼
大永元冬己卯二月十六日卒
葬于中宿村

古ノ子全雜記曰
中宿村板倉澤城ニ後永徳長
由良大太郎光兼
大永元冬己卯二月十六日卒
葬于中宿村

光宗是孫八郎之重時禮也
弘治二丙辰年春深備松平
大牧好宗中宿ニ出テ由良
光宗ヲ城ニ押寄ル我城内
勢微而討負大牧好宗居
柵石改易在門ト申付討死
光宗自是太牧中宿城板倉澤ニ移る

高石

佐高神助

由良九右衛門松平八郎

板倉貞徳

中宿郷古城ニ有リ 由良平八郎 光宗元曰ク家由良氏ノ祖由ト云

同在大郎 光宗元曰ク孫八ト云

板倉澤守重定

光宗元傳曰中宿城ニ由良討死後ニ板倉澤守重定

重定は方ルニ水跡ニ有リ板倉澤守重定良川ノ畔ニ家康公ハ南ノ方ニ
好宗は備前守ニシテ中宿ヲ攻ム板倉澤守重定ハ中宿ニ在リテ
之ヲ拒ム出馬方ニ出テ守ルモ中宿ヲ攻ム重定ハ城ニ在リテ
武家系守ニシテ板倉澤守重定ハ妙島村ニ在リシト云又云滿村ノ子

重定板倉澤守重定下号中宿城守松平大牧助好宗ヲ攻

終ニ守リ城守人ト云

按由長子討于彈正ト重トハ又滿頼トシテ好景ニ被攻所ハ父子共ニ
當城住シ居候ノ後是ノ後其子又大神君被攻子ノ重定トシテ初テ
好景ノ家トナリ小美村ニ在候トシ者ナラシ自是三代深溝家ノ後軍
欲委ハ三川水ニ出ツ

永祿四年辛酉居城 永祿四年二月七日皆大神君松平
大炊女好景被攻ニ命テ中納言板倉彈正
ヲ攻撃シメ玉フ板倉拒クテ受テ得ス是ノ故ニ走ト云

源義家八幡 大郎 義國式部 大輔 義康足利陸奥 新判官 義兼足利 上卷外

義氏足利左馬介 正五位下 泰氏足利宮内少輔 從四位下 頼氏足利尾張守 從四位下 家氏足利 義朝

義顯淡川三郎 板倉刑部少輔 初テ板倉ト稱ス以上大系圖 義春淡川 三郎三郎 真頼淡川彦三郎 丹波守

義季淡川又三郎 從五位下 刑部大輔 建武二年七月相模守時行鎌倉攻
時義季於武只拒テモ不利ノ於女影原ニ討死

直頼淡川大郎 從五位下 中務大輔

季頼板倉次郎 義季討死後 戰場ヲ道ニ赴他邦 義行板倉 左兵衛佐 滿頼板倉連 近衛將 三羽八幡表 君住ス

重定板倉季凌 彈正中 嶋城主 松平好景家ノ成 後三羽小美村ニ住ス 武家系圖ハ義亮 頼重板倉八右衛門 法名清庵

忠重板倉本五左衛門 天正十二年卒

勝重四郎五左衛門 從五位下 伊賀守 自幼禪僧 成与或并板倉族皆戰死ス 依約命還借ス 五百石 賜慶長五年蒙約命 京都諸司代 勤三万石 賜

定重喜藏 天正五年十月於遠及小山城ニ討死ス

重宗周防守 從四位少將 京都諸司代 六万石ヲ賜フ 此人ノ智謀勇才父ニ不劣 今ノ世以テ知之

重卿 阿波守五万石領
父ノ家督

重常 隠岐守

重冬 周防守
當時備中松城守

重形 伊予守
二万石分知

重同 伊豫守
當時上六安中二万石

重昌

内膳正寛永十五年正月朔日肥後島原
三子ヲ爲士民討死

重天 市正

重良 伯耆守
三万石分知

重相 越中守當時備中
同及瀬三万石

重矩

三水正父ノ家督ヲ續
段々重シテ六万石ヲ賜

重通

内膳正
三万石分知

重直

筑後守
八千石ヲ賜奉三川ホトス

重寛

甲斐守當時奥及
福与三万石

次ニ松平大炊女好景

大御但世任假傳構永保元年春奉次郎中侍之
御ヲ賜是是且之數女伊達ヲ中侍ニ宣ハ同年東条右良成照

長良繩子於テ討死 永保元年四月

好景ノ嫡子伊達紅弓率ノ同室ノ所 城 酒井
ノ監ヲ攻同十五有右良吉照

中侍ノ勢上能分テ遠ニ依倣ナルヲ圍テ倭軍ヲ出共圍城好景深

溝出テ後ヲ討ツ故忽テ彼ヲ好景是ヲ追テ善明地ニ至テ

時去古城ヨリ右良ヲ援テ競来好景ヲ圍ム好景勇ヲフルト

力發スト片勢激ニシ終ニ殺死ス千四十四歳好景ノ系傳傳傳

ノ下ニ出ス 三川船ニ志シ

五家村

三石八拾石

五家村古池浦 石川之陽 二葉松

出生元云石川八左門下云同人ノ撰皆小山ノ形也 藤原ノ孫ノ
八上男ハニラ本四家ヲ取リ

是梅ニ編テ是邦最ニ大形也 方依美以依依多ノ世ニ希者
高ナリ

板倉田信成

下和田村

三石百七拾石 三斗五升

古池 杉木 松 二葉松

二葉松云古池依地有物天 半申信成之任官又加後事力信之

板倉田信成
二斗 五拾石

野細村

三石百貳拾石 三斗三升

長傍成

二葉松 二斗 依地高秀依地小変思柳在物ニ橋首高田後事

三川堤云古城依野有鳥之物 天文二年申清康公仕官

按當時依地有古物依反ノ御足祖成

依野高書 出生元云今師アリ 五孫今ニ紀成方ノ也

同小五更 口ニ

畔柳无物 口書云女子孫今又紀成アリ

三橋古池 口ニ

由及中書 口ニ

諸軍ヲ誘ふ又云其好音御出する七人の内ノ輕重ヲ扶テとてトノ
并田ノ敵ヲ追拂テ敵大軍ヲ出シテ戦フ敵テ引退クニ是テ廣宣重
臣並田等ヲ攻メ敵大砲ヲ以テ稠是ノ村ニ廣宣城ヲ築クト云
是ニ敵ハ人出向テ廣宣下突合ニ成ル所ニ後カ故敵是とて引退ク
廣宣遂ニ干内中ニ在リ是ノ節ト突合ニ隙ヲ打テ居ル廣宣
隙ノ所ニ上ノ右ノ顔ニ此ノ野中廣宣ノ果ノ骨ヲ突ケ振向ル又左ノ
身根ノ上ノ突メ次ノ眼ノ上ノ突メ依テ土屋ヨリ落下リ重テ言リ安
忍テ廣宣右ノ手ヨリ野中カ隙ノ隙ヲ取テ以テ合ニ此ノ隙ヲ指シテ
右ニテカヲ振リ野中ニ引テ引退ク廣宣遂ニ再ヒ土屋登リ又敵ハ
構殊砲ニ居内ニ居テ三回ヲ撃テ之ニ廣宣カ腹ヲ通リ久代某カ腰ヲ

打テ貫ク依テ則倒レ伏スニ公宣是ヲ不顧テ終ニ敵城中ニ入テ敵ハ人鎧
ヲ以テ廣宣ヲ突メテ敵ハ廣宣鎧ヲ不持シカニ先ニ槍ヲ槍戦
テ終ニ敵ヲ倒シ首ヲ擡下ルニ力無シ土居際ニ臥テ件ノ刀ヲ取テ
止ニ敵引退テ又弛向テ廣宣敵列相散テ互ニ面ヲ奪リ血流レ
眼明カナリナルニ土居ノ下ニ退リ久代某未タ死スニテ敵高ニ勇ヲ
フカ故敵引退ク廣宣又頻ニ件ノ敵ヲ逐行又ハ人敵廣宣弛向テ廣
宣是ノ下カ敵ノ首ヲ取リ形ノ城外ニ出ツテ時ニ千餘兵競ニ味方
兵並召兵花敵ノ来カト疑ヒ柵ヲ越テ退クニ廣宣敵ヲ所麻ヲ
被ルカ故敵ノ備入り紛レ去シ若シ不叶ハ討死スニト云其藏圍之兵ガ
々々ニ依テ後ヨリ暮ニ行ク近テ見ニ味方ナリ廣宣是ヨリ御前出テ

取外ノ首ヲ歟ス亦手ヲ負ニ依テ久保抱之伯父自反テ其馬ノ二匹布力カ
太刀ヲ持テ候ス 大権次石川伯耆守ヲ召テ召テ云彦彦官方又勇ナリト
人モ若年ヲ討死ス祖父平太夫ト惟肖ス 御感不斜辱モ御子自ラ
茶ヲ冒ル麻侍モ又外科山本上林ヲ召テ廣宣方鼻ノ落療治
ヲ加フヘシトノ旨ヲ蒙ル

長ノ子御侍の時秀次長ノ子一出家 大権次大須奈康ヨリ今ヲ機
ニ戦フ改メシモ能言ノ子勢而治ヲテ秀次向テ惣軍未ダ忍ビテ故擬撥
メ進メスニ信希廣宣見テ自ラ馬ヲ下リ信吉下ニ下リテ秀次軍ノ
右向ト危言ヲ放銃物其日ニ遠原奔ル來候兵車ヨリテ旗結開飛
廣宣見テ呼テ曰御軍々 此軍ヲ進メ競テ討ツ秀次一軍モ不支ノ良キ

此ハ廣宣母女白河方ノ捨御ヲ負テ長體ヲ不知ル者ヲ討テ首取ル
其ハ能登江苗原原皆方切 園東佛入園村上徳園横田村之石
ヲ錫 園東原之坂有首大取官 之和之年ノ秋在徳云同由海之島
多他他也之有石錫 同三年同出徳誠領之也ニ有石御加恩
同九年上徳園ニ有石加錫 寛永四年二月十九日於江戶死
六十六 法名日詠

村之天皇弟第七皇子具來親王十三代

○具通 送位大政大臣 大納言 清通 送位大政大臣 右大臣
号久世右大将 右大臣 号平兵衛

豊通 從一位右大臣 左大臣

東按

某 久世五天夫自幼與左馬政知政知國東下向ノ 廣通 久世平七郎
時傳之下野國 居又古河兵 後移三州 住三州

廣長 平大夫生三州奉仕清康公廣忠君大ニ戦功ヲ尽ス
大權現常ニ彼ノ一ヲシテモ

廣政 甚太郎生三州奉仕大權現

長宣 平四郎生三州 大權現仕奉ル 永録六七ノ面宗ニ授與シ戦死
二十四ノ 法名洋泉

某 甚九郎生三州奉仕大權現
於三州 戦死 十九ノ

廣宣 三四郎 三左門 生三州
奉仕 大權現

廣當 山三郎 三四郎 慶長十九年ノ冬ニ攻陣陣於テ初ニ仕大權現
同年江ノ上ニ奉調 台休公元和元ノ役 台休公供奉又御凱陣
ノ後於下ニ給五百石ヲ賜 勅御小性同四年父ノ後ヲ可兒習

蒙仰寛永四年父ノ遺領七十石賜 同十二年与力卒 騎足輕百ノ
預リ大手御門番ヲ勤ム

勝宣 作十郎 攻部三郎 為養子
元和ノ後 五月七日討死 十五ノ

廣重 三郎 右門

女二人 大久保荒之助忠當室
酒井作左門重之室

廣賢 五郎 八平四郎

廣之 三之丞 大和守 寛永元年八月奉仕 將軍家為御小性 同三年
四月凡廣當父ノ家督ヲ継時 廣之ノ領五百石賜 御膳番

御書院番 中貞御番 御小納戸 御徒頭 此時大和守 御小性番
此時五十石ノ成ル 寛文二年若年寄 無程御側御用人 同九年御老中

從四位下侍從 同年御加恩有テ 四万石ヲ成 然別關者城ヲ賜

廣卿 權之助

重之 出雲守 大和守

委ノ公言 田城下ニ出ツ又三川水ニ委シ

小倉玉之物 此物云々跡有り終極教所之祖云

直友在唐之物

酒井三千部

畔柳治兵衛

寺田正入

上和田村

三郎百九拾七石

田原

印倉石

三郎百七拾七石

淨珠院

長保院

創業源一也

天文十二年二月大日守

法名深秀

此ハ三別源海部ノ位士

法名深秀

士也又久保新八弟忠俊

カ父也

古魚浦 大久保新八弟忠俊法名深秀

法名深秀

大久保憲行 此法名大久保氏皆由邑之者後大久保川水出ス

二葉松 大久保新八弟忠俊阿波國高松藩世傳者之祖曰痛

苦八次次佐野年八弟忠川に弟忠新曰此に存す邦中も進取兼人

守津丸連の弟 此法名大久保氏皆由邑之者後大久保川水出ス

此人或時稱が白大付大蛇 此法名大久保氏皆由邑之者後大久保川水出ス

彼ら大久保新八弟忠俊之志云々感と祭神大久保神宮妻三川水出リ
尚神社に於て也

守津丸弟在唐 此法名大久保氏皆由邑之者後大久保川水出ス

見此等の名と傳字ノ誤ナレハ也

為徳大威化^三天正十六年丁未織田淳忠信秀松平之長男
ト長守ヲ攻メテ瀧ノ廣忠君を至^五至^七テ見^八平^九弟^十重^{十一}忠^{十二}君
テカヲ授テ曰^{十三}松平^{十四}之^{十五}命^{十六}一^{十七}命^{十八}如^{十九}之^{二十}上^{二十一}和^{二十二}田^{二十三}城^{二十四}入^{二十五}織^{二十六}田^{二十七}氏^{二十八}
ノ内^{二十九}ヲ^{三十}ス^{三十一}本^{三十二}基^{三十三}立^{三十四}シ^{三十五}公^{三十六}汝^{三十七}刺^{三十八}客^{三十九}上^{四十}テ^{四十一}我^{四十二}乃^{四十三}上^{四十四}和^{四十五}田^{四十六}入^{四十七}之^{四十八}命^{四十九}高^{五十}刺^{五十一}
シ^{五十二}徳^{五十三}ハ^{五十四}衣^{五十五}表^{五十六}上^{五十七}ニ^{五十八}テ^{五十九}百^{六十}貫^{六十一}以^{六十二}テ^{六十三}授^{六十四}ケ^{六十五}慎^{六十六}テ^{六十七}畏^{六十八}リ^{六十九}テ^{七十}若^{七十一}ク^{七十二}廣^{七十三}忠^{七十四}白^{七十五}以^{七十六}刺^{七十七}
ハ^{七十八}事^{七十九}足^{八十}シ^{八十一}汝^{八十二}速^{八十三}ニ^{八十四}カ^{八十五}ヲ^{八十六}捨^{八十七}テ^{八十八}ゆ^{八十九}ク^{九十}去^{九十一}シ^{九十二}若^{九十三}ク^{九十四}有^{九十五}テ^{九十六}携^{九十七}テ^{九十八}取^{九十九}下^{一百}セ^{一百一}又^{一百二}免^{一百三}シ^{一百四}重^{一百五}忠^{一百六}
其^{一百七}宅^{一百八}飯^{一百九}ノ^{二百}テ^{二百一}テ^{二百二}美^{二百三}助^{二百四}美^{二百五}若^{二百六}ク^{二百七}世^{二百八}下^{二百九}ニ^{三百}テ^{三百一}平^{三百二}弟^{三百三}カ^{三百四}ス^{三百五}上^{三百六}月^{三百七}存^{三百八}弟^{三百九}其^{四百}
乃^{四百一}テ^{四百二}見^{四百三}弟^{四百四}別^{四百五}ヲ^{四百六}告^{四百七}テ^{四百八}出^{四百九}ツ^{五百}物^{五百一}ヲ^{五百二}美^{五百三}法^{五百四}ヲ^{五百五}遂^{五百六}テ^{五百七}客^{五百八}上^{五百九}和^{六百}田^{六百一}ニ^{六百二}出^{六百三}テ^{六百四}溝^{六百五}中^{六百六}ニ^{六百七}隠^{六百八}
平^{六百九}弟^{七百}中^{七百一}入^{七百二}ル^{七百三}ニ^{七百四}長^{七百五}弟^{七百六}ノ^{七百七}懸^{七百八}懸^{七百九}ス^{八百}平^{八百一}弟^{八百二}是^{八百三}ヲ^{八百四}刺^{八百五}殺^{八百六}テ^{八百七}所^{八百八}行^{八百九}城^{九百}ヲ^{九百一}紹^{九百二}テ^{九百三}
出^{九百四}ツ^{九百五}倉^{九百六}庫^{九百七}ニ^{九百八}俣^{九百九}ヲ^{一千}換^{一千一}ス^{一千二}此^{一千三}ニ^{一千四}物^{一千五}ヲ^{一千六}美^{一千七}法^{一千八}中^{一千九}ヨ^{二千}リ^{二千一}出^{二千二}テ^{二千三}平^{二千四}弟^{二千五}ヲ^{二千六}授^{二千七}ケ^{二千八}テ^{二千九}行^{三千}

ニ^{三千一}テ^{三千二}有^{三千三}テ^{三千四}其^{三千五}ノ^{三千六}始^{三千七}末^{三千八}ヲ^{三千九}伺^{四千}フ^{四千一}平^{四千二}弟^{四千三}曰^{四千四}物^{四千五}志^{四千六}遂^{四千七}ス^{四千八}恩^{四千九}ハ^{五千}公^{五千一}ヲ^{五千二}カ^{五千三}レ^{五千四}
助^{五千五}ヲ^{五千六}美^{五千七}分^{五千八}曰^{五千九}見^{六千}其^{六千一}功^{六千二}依^{六千三}テ^{六千四}足^{六千五}テ^{六千六}恩^{六千七}深^{六千八}ヲ^{六千九}得^{七千}テ^{七千一}我^{七千二}分^{七千三}ヲ^{七千四}授^{七千五}ケ^{七千六}テ^{七千七}抱^{七千八}ク^{七千九}取^{八千}ル^{八千一}若^{八千二}
御^{八千三}ラス^{八千四}ハ^{八千五}長^{八千六}弟^{八千七}也^{八千八}平^{八千九}弟^{九千}カ^{九千一}曰^{九千二}我^{九千三}ヲ^{九千四}長^{九千五}弟^{九千六}カ^{九千七}殺^{九千八}ス^{九千九}嗚^{十千}呼^{十千一}我^{十千二}恩^{十千三}賞^{十千四}
ヲ^{十千五}得^{十千六}ハ^{十千七}長^{十千八}弟^{十千九}カ^{十一千}法^{十一千一}ヲ^{十一千二}所^{十一千三}ヨ^{十一千四}違^{十一千五}ハ^{十一千六}シ^{十一千七}ヤ^{十一千八}助^{十一千九}ヲ^{十二千}美^{十二千一}法^{十二千二}テ^{十二千三}平^{十二千四}弟^{十二千五}ヲ^{十二千六}授^{十二千七}ケ^{十二千八}テ^{十二千九}是^{十三千}後^{十三千一}取^{十三千二}ル^{十三千三}
以^{十三千四}テ^{十三千五}廣^{十三千六}忠^{十三千七}君^{十三千八}平^{十三千九}弟^{十四千}ヲ^{十四千一}召^{十四千二}テ^{十四千三}其^{十四千四}命^{十四千五}ヲ^{十四千六}遂^{十四千七}ク^{十四千八}テ^{十四千九}喜^{十五千}ヒ^{十五千一}書^{十五千二}ヲ^{十五千三}授^{十五千四}ケ^{十五千五}テ^{十五千六}
百^{十五千七}貫^{十五千八}地^{十五千九}ヲ^{十六千}賜^{十六千一}フ^{十六千二}平^{十六千三}弟^{十六千四}弟^{十六千五}乃^{十六千六}ク^{十六千七}ヤ^{十六千八}ク^{十六千九}若^{十七千}ク^{十七千一}地^{十七千二}ヲ^{十七千三}分^{十七千四}テ^{十七千五}助^{十七千六}ヲ^{十七千七}美^{十七千八}法^{十七千九}授^{十八千}ケ^{十八千一}
或^{十八千二}説^{十八千三}曰^{十八千四}平^{十八千五}弟^{十八千六}上^{十八千七}和^{十八千八}田^{十八千九}ニ^{十九千}出^{十九千一}テ^{十九千二}伴^{十九千三}テ^{十九千四}廣^{十九千五}忠^{十九千六}君^{十九千七}三^{十九千八}恨^{十九千九}在^{二十千}下^{二十千一}若^{二十千二}ク^{二十千三}ニ^{二十千四}長^{二十千五}弟^{二十千六}カ^{二十千七}
喜^{二十千八}ヒ^{二十千九}テ^{二十千}是^{二十千一}ヨ^{二十千二}近^{二十千三}ク^{二十千四}平^{二十千五}弟^{二十千六}陪^{二十千七}中^{二十千八}ヲ^{二十千九}伺^{二十千}テ^{二十千一}長^{二十千二}弟^{二十千三}カ^{二十千四}殺^{二十千五}ス^{二十千六}其^{二十千七}カ^{二十千八}ヲ^{二十千九}惜^{二十千}テ^{二十千一}コ^{二十千二}ト^{二十千三}
授^{二十千四}テ^{二十千五}携^{二十千六}ハ^{二十千七}取^{二十千八}ル^{二十千九}ト^{二十千}ス^{二十千一}長^{二十千二}弟^{二十千三}其^{二十千四}命^{二十千五}ヲ^{二十千六}絶^{二十千七}ス^{二十千八}若^{二十千九}ク^{二十千}揚^{二十千一}テ^{二十千二}呼^{二十千三}フ^{二十千四}其^{二十千五}家^{二十千六}僕^{二十千七}侍^{二十千八}侍^{二十千九}
テ^{二十千}平^{二十千一}弟^{二十千二}ヲ^{二十千三}追^{二十千四}テ^{二十千五}尾^{二十千六}及^{二十千七}ハ^{二十千八}ム^{二十千九}止^{二十千}ス^{二十千一}後^{二十千二}織^{二十千三}田^{二十千四}信^{二十千五}秀^{二十千六}上^{二十千七}和^{二十千八}田^{二十千九}ニ^{二十千}出^{二十千一}テ^{二十千二}ス^{二十千三}

先者ヲ擇テ上和田ヲ守ラシメ且六田墨ヲ集テ是傍ニ過シ奔奔
信廣信長城ヲ守ラシメテ尾張取ル

大久保武田九郎ノリニ新八郎忠俊後之島在馬ノ村ト云ク

寛永五年云々高橋二年清原公政被殺之時清原氏子惟仲入
款發来ルル高橋也忠俊安返テ之信原公自來集會ニ故款被
走ス世故ニ高橋成ス天正四年廣忠公將別取原公將亦佐令一
同而廣忠公可入之妙也忠俊亦討高橋可被取之由於
伊弉八幡之神初令高橋七叔取信之由也忠俊宅傳謂曰門之
子之孫之清原也廣忠公可奉入高橋云々別取高橋也
朋友村麻巾八田云云成取又高橋左京左近將也等ト

逆室隆徳終天文六年廣忠云々高橋誠美之六場忠俊快
稱於高橋也高橋也高橋也高橋也高橋也今川義元於高橋
河原ノ別高橋成後高橋也高橋也高橋也高橋也高橋也高橋也
礼隊忠俊一人兼所師迫取不殺一路而師休三田年而一獲ノ
時上和田一族良高ノ大目夜言誠終出從平仲ス

天正九年平八十二云 法名淨云

忠俊元稱平陸改高橋事豊後有忠俊云々改高橋云々
定永系高云昔年從越前國高橋有修乃大雀夜高云
来之妙而文權大住佳力云可殘名字合ハ忠俊謂可名高之
平川忠俊令約張早云云

武徳大成元卷
解江合戦條大久保
新八年志後トアリ

其子多良丸也志傷

補

新公卿ト号定亦系馬云天文十年今川義元

志傷初集合衆曰十七年三列心中城合戦之陣味方之人致也其時
谷而持備之如自款降之聲聞之太久保一意意欲於後管欲又
云哉大將の第一可進謂而放二矢夫雅中志傷非深幸自
向尾石川新九弟引率同勢而攻上元於是不難他門獲愈
終追期二劔軍

弘治元年於尾州解江城被攻之時方干時志傷及叔又

甚心弟甚七弟在馬門同治在馬門安初口弟中杉浦八弟

父子七人 是ヨカニエセテヤ 録ヲ採テ突合兵終ニ敵ヲ追入城中志傷

義勇追房之某田傷家傷家存引兵而敗

同一年一向宗二撥ヲ奪時上和田志傷及友ヲ為其弟其門

親戚朋友共志勝為与力彼乞口勝余後三年十月三日

至正月迄毎日毎夜之官幾千辛万苦而終因乞口也間言

名軍志依為每夜而妻不能記之其外陣勢全不依奉又言不

戰功 慶長六年卒七十八 法名徳源

大久保左馬次郎

如生記出之志後多志次下号阿初口弟也

大久保平左衛門

守元之志負号志後志次也天文六年

城志負最有功 尾州解江合戦七本落之日志十年十月卒
七十二 法名了意

同 之弟在馬門

月之志久号志後之弟也天文十年三列心中城攻
ノ時討死ス

同八節有門

曰之〇是ハ大久保ノ社ニ傳ハル者ナリ常ニ初テ別ニテ有リ者御ニ信ニ和者也信之ニ仕ヘ人ニ也

同助在門

曰之〇是ハ大久保ノ社ニ傳ハル者ナリ常ニ初テ別ニテ有リ者御ニ信ニ和者也信之ニ仕ヘ人ニ也

同夫在門

曰之〇志教ト号志貞ノ子志世号ノ弟ハ大神ノ君ノ御母ト云不信奉又業功見作事志依之嗣以志教欲ハル者子也志教曰他人ヲ取テ我何セシヤト謂テ不隨下也

國書裏記云志教為人ヲ被信氣隨之云云在許事ハ上ノ事

トハ所信其後也や朋友ノ交リ也故其右列ハ其也云々

云々石也錫ハ云々ト家老ト所代ト志教也裏記云死

于時改田と思フ云々使云石也錫ハ云々教勇て是成不

奉清和國之弟云志道ノ命在且ト所加信拜ハ其ノ用ナリ

云々云々其後云々云々ト其弟死ト裏一云々ト何何何云々

云々知云々其弟者也終其已死云々申云々又云々志教

云々ト所加信と云々其後云々志教云々〇又志教云々

大後唐云大秘録云々

同謂各云記云云云一授近信之法其為事ト云云伊信云云

教中云云其地云云一ト云々云々所云云云其後授近信云云

云々其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云

中云々〇云々其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云

其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云

其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云云云其後授近信云云

あし初軍令と省しして其物より其の功を以て定む
其後及ふ所のいふことあるは其の上より其の功を以て
其の功を以て定むるより其の功を以て定むるより其の功を以て
也其の時より其の功を以て定むるより其の功を以て定むるより
の位に定むるより其の功を以て定むるより其の功を以て定むるより
其の功を以て定むるより其の功を以て定むるより其の功を以て定むるより

寛永八年辛未七月庚辰日度在之別元長福守碑

大久保勘助 同之

阿部正徳之坊 同之
志次阿部正徳之坊 同之
八幡子也志次下等

同編 卷八

同之〇五嘉永元年満之元和七年辛酉九月阿部正徳
永井長十郎正徳及長福永井願之志次下等

カ之新八郎中二取之ラハ重テ言果テ志次下等
及長福我神申候之相之^于也^也 志次下等
正徳同左之取之永井信徳也長福招之入右之部長徳也
長十郎既之志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也
同之阿部正徳他人急之志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也
其後ハ夕暮り今之志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也
カ若志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也
其の若志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也
其の若志次下等也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也長十郎也

及者皆退而告八階之自餘皆以北元御守近者八
名宗子利長十弟長年按刃也。此弟自腰而刺之。言
後又若宗子於去勢下。天為之。地乞其。中傳文。踏止。切合
夕。若八弟。弟終。其。訂。長。弟。止。言。利。入。三。際。傳。中。中
宅。三。行。几。喧。喚。上。上。天。情。日。雲。八。不。知。若。乃。為。其。其。後
若八。隱。之。神。心。若。忠。云。御。代。復。八。勢。取。之。云。
三川。水。北。人。阿。於。德。中。出。同。右。名。分。不。能。進。可。考。

○謙之公 淡海公 房前 有格 內膳 冬嗣

良房 基後 忠奉 師輔 九条 兼家 抄改

通兼 栗田國白 兼隆 中納言 兼房 權後守 右少兵衛 宗圓 字都宮 宣主 宗綱 字都宮 魚野守

朝綱 字都宮 宣主 兼道 鳥羽院武者所 朝重 字都宮 宣主 兼三郎 賴綱 字都宮 兼三郎

泰綱 字都宮 下野前司 景綱 字都宮 野守 貞綱 字都宮 備前 權守

公綱 字都宮 治部 大輔 左少將 南朝 被執 昇殿 泰綱 字都宮 常陸公 時景 字都宮 美濃守

泰藤 字津美濃 守監 仕義貞 許田家 沒落 御 自越前 至三州 任改称 字津 法名 蓮常 常意

道意 常善 字津 高左衛門 三郎 上智住 初仕 和泉守 信光卿 忠興 字津 三郎 左三門

忠繁 字津 左門 五郎 和田領主 傳有前 忠武 字津 左門 五郎 上和田住 天文十六年二月 甲申 法名 源秀

忠俊 新八郎 高左衛門 改字津 孫大久保 傳有前 忠勝 新八郎 高左衛門 傳有前

忠次 初字津左門次郎
後阿部四郎五郎

忠正 阿部四郎兵衛

忠政 三郎左門忠久
養子

忠貞 大久保甚四郎
平左門傳有前

忠吉 四郎右門

忠久 三郎左門
忠政 三郎左門

忠豐 喜六

忠世 新十郎
七郎左門尉傳有羽根村

忠益 助左門

忠佐 治左門一世之勇功兄不劣
諸書如載

忠直 甚左門

天正八年關東入國... 石見國... 合部及... 或... 日... 雅...

康忠 新八郎 高右門 永祿六年
一向宗一役大久保一族當色忠勝
力屋敷構此若土呂針寄... 日衣台戰其終 大神君

忠包 大三郎
永祿三年九月上旨藤波略
高哉丸

忠寄 新藏
於味方原討死

忠核 勘七
於六井伴死

忠為 權左門
忠信 權左門

忠長 甚左門
忠知 左馬次

忠教 平助 後彦左門
傳有前

忠高 權左門 伊豆守
此未信野之爲城三万石領

為所公多忠街力籍... 伴... 又... 康... 功...

忠高 新七郎
於長久手討死

某 六大夫

忠以 五良兵衛
仕紀別願宣卿

忠良 勘三郎

康村 新八郎 台德公奉仕大番頭
寛永三年御呂頭

忠隣 相模守此未傳賢故事之

委三川水ニ出ス

忠重 次郎八

一向宗之教之旨之保カドモ之若トテ一城ヲ守志信チ

家徳日記ニ云上洛 有地集テ大神在屋忠ヨリテ欲ス上和
ノハ大保ノ高富門村ヲ難要害ヲ構メ大保日姓ノ輩之
在馬村ノ下ノ大保高富村新公第海之弟七弟在馬村
公第在馬村新七弟海八弟志重ノ由テ弟八弟海
モ初行シ之曰日市由田井大保高富村若クモ之計
一後ト妻敵ヲ取

中ノ一後記ニ云和田之若ク大保高富村在馬村志信同
在馬村志世曰公第在馬村志信曰新八弟志重弟曰海弟曰

新七弟曰之由曰高六曰弟一曰新物曰弟七弟曰九八曰
八弟在馬村曰新新曰弟三曰自後曰弟在馬村弟五弟
曰弟六弟在馬村八弟曰弟七弟曰弟八弟曰弟九弟曰弟
十弟曰弟十一弟曰弟十二弟曰弟十三弟曰弟十四弟曰
弟十五弟曰弟十六弟曰弟十七弟曰弟十八弟曰弟十九弟曰
弟二十弟曰弟二十一弟曰弟二十二弟曰弟二十三弟曰弟
二十四弟曰弟二十五弟曰弟二十六弟曰弟二十七弟曰弟
二十八弟曰弟二十九弟曰弟三十弟曰弟三十一弟曰弟三
十二弟曰弟三十三弟曰弟三十四弟曰弟三十五弟曰弟三
十六弟曰弟三十七弟曰弟三十八弟曰弟三十九弟曰弟四
十弟曰弟四十一弟曰弟四十二弟曰弟四十三弟曰弟四
十四弟曰弟四十五弟曰弟四十六弟曰弟四十七弟曰弟四
十八弟曰弟四十九弟曰弟五十弟曰弟五十一弟曰弟五
十二弟曰弟五十三弟曰弟五十四弟曰弟五十五弟曰弟五
十六弟曰弟五十七弟曰弟五十八弟曰弟五十九弟曰弟六
十弟曰弟六十一弟曰弟六十二弟曰弟六十三弟曰弟六
十四弟曰弟六十五弟曰弟六十六弟曰弟六十七弟曰弟六
十八弟曰弟六十九弟曰弟七十弟曰弟七十一弟曰弟七
十二弟曰弟七十三弟曰弟七十四弟曰弟七十五弟曰弟七
十六弟曰弟七十七弟曰弟七十八弟曰弟七十九弟曰弟八
十弟曰弟八十一弟曰弟八十二弟曰弟八十三弟曰弟八
十四弟曰弟八十五弟曰弟八十六弟曰弟八十七弟曰弟八
十八弟曰弟八十九弟曰弟九十弟曰弟九十一弟曰弟九
十二弟曰弟九十三弟曰弟九十四弟曰弟九十五弟曰弟九
十六弟曰弟九十七弟曰弟九十八弟曰弟九十九弟曰弟一
百弟

永祿三年正月廿七日迄流傳之由也其上記之若クモ之攻
若クモ之高ノ目也之若クモ之傳分傳也之若クモ之遠ノ目
之若クモ之弱ノ目也之若クモ之身也之若クモ之北ヲ勿遠ノ目也之若
若クモ之遠ノ目也之若クモ之一後記○大目計高信也之若クモ之
若クモ之と和曰傳之若クモ之若クモ之若クモ之若クモ之若クモ之

相高の目撃したる長信の跡也

同日三月廿六日長信と和目守軍と井口御舎へ進出信
之守目撃したる保正の軍也其の跡也此の跡也
之を以て保正の軍也其の跡也此の跡也
二階下ノ一階ハ之ノ保正の軍也其の跡也此の跡也
遠方ヨリ保正の軍也其の跡也此の跡也
改修ノ工井ノ口也其の跡也此の跡也
去井ノ口ヨリ進出也其の跡也此の跡也
信守ノ跡也其の跡也此の跡也
知所改修也其の跡也此の跡也

相高の目撃したる長信の跡也
改修ノ工井ノ口也其の跡也此の跡也
去井ノ口ヨリ進出也其の跡也此の跡也
信守ノ跡也其の跡也此の跡也
知所改修也其の跡也此の跡也

一檢記云、永祿七年甲子の月、長信は、
ノ山ノ陣トシテ、八百餘人トモ、
町ノ目撃したる長信と和目守軍と井口御舎へ進出信
之守目撃したる保正の軍也其の跡也此の跡也
之を以て保正の軍也其の跡也此の跡也
二階下ノ一階ハ之ノ保正の軍也其の跡也此の跡也
遠方ヨリ保正の軍也其の跡也此の跡也
改修ノ工井ノ口也其の跡也此の跡也
去井ノ口ヨリ進出也其の跡也此の跡也
信守ノ跡也其の跡也此の跡也
知所改修也其の跡也此の跡也

傳馬ノ之町半モ引退ノ処。公慶ヲ振テ然レヤ者トト知シテ
ハ津根ニ在リト有テ其ノ進ニ接方トテ河邊原ヲ接シテ
之ヲ力方子ヨリ相引テ移ルヤテ封テ河邊引テ切テハ
河邊ヲ封シテ下ノ河邊ニ封シテ接方ニ封テ河邊ヲ封シテ

公自財方トシテ河邊ヲ封シテ下ノ河邊ニ封シテ河邊ヲ封シテ
石川ノ多クハ河邊ノ上ノ河邊ニ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ

河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ

之ニ長計傳ノ引退ノ故ニテ世平ハ帝ノ下ノ封人ナリテ味方ニハ
字ヲ有テ帝ノ封人ナリテ味方ニハ字ヲ有テ帝ノ封人ナリテ
不忠ニ有テ味方ニハ字ヲ有テ帝ノ封人ナリテ味方ニハ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ
河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ

河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ河邊ヲ封シテ

上野守右衛門尉公忠公忠の御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
進公凶流の方より海邊に在り杜村に在り馬田の事平太左衛門
是是より目此の情事好しと云々此の御方より杜村に在り馬田の事
ト様々今テ致さるる所は御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
村の方より退き路公田に在り杜村に在り馬田の事平太左衛門
張懸れ路公田に在り杜村に在り馬田の事平太左衛門
之由より御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
ケルに在り馬田の事平太左衛門
今御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門

前より後へ御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
又スウクト御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門

又云増田村御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
石のノコニシテ御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
ケル池野を御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門

佐野守八郎

武徳大威元牧野守八郎の御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
先く是より御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門
騎つて御方より杜村に在り馬田の事平太左衛門

整へて下地境に押上らん 貞辰補之

市川半兵衛

日村長良弟は久保兼光親忠を以て古き刑部之色親之り子息

兵庫親直也 出陣に北川口宛親直云 御意傳は兵庫

入道親直也 和田七郎親直也 毎三日月出づ

○信光 和泉守 親忠 左京進 親光 左衛門尉 親直 松平刑部 和田七郎親直

創業録卷三 今日軍天久保兼五郎忠行高男ヲ劾之決絶ニ申リ遂ニ腰不立。
○上和和泉守高居ス 神君謙之ヲ采邑三百石ヲ賜フ忠行ハ左門五郎
忠行カ五男ノ位ニ係録シテ知表スルニ好ニ存ク以テ神君ニ
出陣時礼世テ仕類ニ毒ヲ入ルニ故頼リニ用ト玉ハ忠行知表スル
係録所ノ意所疑ハ責味方也 下略

官地村

二三百拾八石之身位并八合

田伏

拾五石之年

物田寺代

田拾石

友陸代

残之拾石八合八合

長湯代

法性寺

二三百拾八石之年身

長湯代

牧師堂村

三ノ口八幡宮石九平八寸

長崎氏

六井村

三ノ口八幡宮石九平八寸

長崎氏

六井村古遺跡

本多氏及堀部信重

本多公孫正時之子正次正由正富正高正弟正信正純子正次弟

信廣正富正清正泰正信正井村信重正純正年天文

之別上地之遺跡御油繩石三寸九寸付石五寸

堀部正高正高正弟正高正弟正高正弟正高正弟正高正弟

當御傳又自大神君揚見福約場永良御

東城義昭之臣富永傳弟上高良昭之臣三寸合澤宮水

宮上得旨者之故義昭故之臣高良昭之臣三寸合澤宮水

祿十年之別古田城可攻高良昭之臣三寸合澤宮水

指高良昭之臣三寸合澤宮水之別古田城可攻高良昭之臣

城守高良昭之臣三寸合澤宮水之別古田城可攻高良昭之臣

而八國之村上野國白井城二万石之場

慶長之年中甲申十二月十七日卒于彼十一年

○海島公

三信内右衛門

浪海公

正二位

右大臣

房前

正三位

有楠上納言

内膳

右大臣
久米基房

冬嗣

左大臣

良房

攝政
左大臣

基経

園口
左大臣

忠平

攝政
左大臣

師輔

兼道

園口
左大臣

頭光

左大臣

頭忠

兼家

兼助

光助

助俊

助清

清家

清満

二条
左大臣

光秀

中務

助秀

豊後守
中務
以中多林長十人

助定

中務右大臣
尾張板根村領人

助政

小八郎

定道

家忠

定助

中務右大臣

正時

中務八郎
三河守
是ヨリ長門守
是ヨリ長門守
長門守

正助

小八郎
左大臣

助時

平八郎
下下
是ヨリ長門守
是ヨリ長門守
是ヨリ長門守

信正

中務右大臣

信廣

中務右大臣

信重

左大臣
下地
下地

廣孝

左大臣
初任
是ヨリ長門守
是ヨリ長門守
是ヨリ長門守

康重

左大臣
康重
康重
康重
康重

康範

左大臣
康範
康範
康範
康範

土井基之丞

土井基之丞
土井基之丞
土井基之丞
土井基之丞

康範
康範
康範
康範
康範

康範
康範
康範
康範
康範

康範
康範
康範
康範
康範

康範
康範
康範
康範
康範

諸家紋起抄卷二
土井大炊利信系
裁多保

利益

田舎より父利隆ヨリ一石五分ノ処ニ也利重房中ノ利久ヨリ養子ノ家督
スルノ処ニ利久又早世共儀知ル所ニ其利重ヲ致シ故ニ惣氏利重
ノ志願ノ家ヲ以テ六万石ヲ下自分ノ持言ト合七万石ニ志願鳥
羽成ヲ賜フ

利久

帯刀利重ノ養子ナル時八歳ニテ家督ス古河十方石ヲ領ス
延宝三年四月廿九日早世干時十歳

利實

官白 不惣氏 自是如去繼 安三川水出ス

福桶村

三石百七拾石

長傍氏

下青野村

三石百七拾石一斗九升六合

内決

三石

長神氏

三石

長光氏

三石

長高氏

三石五斗

長師氏

三石

長地氏

三石百七拾石一斗九升六合

長傍氏

古野村在候 長親公三男按之四男

杉平甚大郎義春

家忠曰元弘治二年二月十日松平右兵衛 之在基高 東条
以之松平右兵衛之口道之誠之攻之國之富村也之義春
終討死ス嗣子家忠幼年也松平左近衛次郎松平因房之
勇士ニシテ家忠方縁者名ニ依ニ松平因房トシテ東条兵ヲ借セ
云口道村ヲ殺シ討死息右兵衛義忠 家忠曰元弘治二年四月
天文九年 十月朔日 早世及之松平因房之其居松平左近衛次郎松平元
大神君右兵衛右兵衛ヲ無カシ

○長親 世良田三郎三郎

義春

東条甚大夫右京亮東城義藤為其子弘治二年四月
二月朔日於之口道作子内 討死東条宝元寺葬
法名義春寺教貞巖頭松

家忠

東条甚高 天正五年正月
一月卒之嗣子家忠絶ス

忠高

松平因房 大徳寺
非之絶上之松平因房之

松平因房守

元弘二年○日書曰今城守有但三川元長親
之男松平甚高其年没左近衛因房方之云是ハ
其高之其弟ハ甚高即忠高ノ一ナルハ家忠早世故其兵
ヲ家忠松平左近衛ニ令テ死ス其領モ松平因房トシ
法不之軍功功ヲ死ス終佛生業ト成テ改姓賜松平任
因房守初号忠高也

○松平金吾兼衛

三列相傳信之東條六条列信乃義之十四男
松平之冠者維義十七代ノ孫ト云ヘリ

忠次

松平左近 之別青野邑信及大神高揚松平村初在東家忠
其高弟家忠早世依テ其兵領共忠次令成テ永禄十二年

遠江郡防部守屋元徳功初平ノ姓ヲ賜リ園防ヲ任セラル
其後ニ康政ノ下ナリ一任防部ナリ後ノナリト云フ云々
月十七日卒 六十二歳 法名宗輝

康重 松平園防守 大津若奉仕 功有 天正八年 園防部入國之時
其以昔西城三万石賜 慶長五年 三間城三万石ヲ賜 同二年
三万石ヲ加賜 都合五万石ニテ 丹州 金山 城 移後 一万石加賜テ 泉列
和国城ヲ賜 定永十七年 六月 廿七日 卒 法名 竜養 淨和

康政 左京大夫 早世

康晴 園防守父ノ家督 石列 後田方石賜 康賢 周防守 安三川水ニ出ス

加藤又三郎 同又八

照信欽

浅井豆水

太田六右衛門

池野浪之助 異名痛ニ患傷方ノ士也 弟ニ河水之助ト云モアリ 宗徳日記ニ一而一授之所 庵下 池集 土内 西金 具ナリ

長谷川

赤松村

赤松村古塚 徳谷一守 天龍助 赤松 同 甚 早 弟 二 三 之 百 之 拾 石 三 斗 五 升 門 平 七

内氏

山石

殘ニノ百 赤松 石 三 斗 五 升

松林寺 長谷川

中之郷村

三石拾七石二斗九升

田沃

石

淨妙寺

三石拾二斗

三石寺

三石拾石八斗九升

長勝領

古原

古原刑部

古原田下者日書白酒井
雅聖大寺南三田

近交瑞左

古原田下者

丹羽勘助

古原田下者

上喜郷村

三石拾七石二斗九升

田沃

石

南老寺

石

大樹寺

石

安養院

石

神水

拾石二斗九升

天王

三石拾石二斗八升

長勝

寺領村

三石谷半米

岩津高屋

野寺村

三石谷半米

因次

三石谷半米

南徳寺

三石谷半米

三石高屋

三石谷半米

三石高屋

小川村

三石谷半米

安徳寺

三石谷半米

武村傳云文安中東野上人達如兼壽博為放絶教宗法部

東國聖野山偶會改奉津日三則我卿定心在芳將原教

治國者^請注右經卷書而以信傳書宗法且持首初黎民^{三石}改奉

諸位之人遂勤而石小川成改山復石川岡長祝卿

同寺八節 三石谷半米

同寺八節 世人考改奉之官係系初康了乳

同修理 改奉之官修理名康長下号小川三住人

同右道 左兵衛尉初康了編寫右道大夫志輔下号又

同安藤守清兼 右近大夫忠輔嫡子

○多田滿仲 賴信 賴義 義家 義隆

義基 下總權守河内國百郡 郡領故以石川為氏 義兼 石川判官代 賴房 石右馬大夫 忠教 石川式部丞

忠賴 石川兵衛尉 義忠 浪人 時通 石川發命 朝成 石川少將 忠房 石川少將

泰信 小出左門 政康 小出守左衛門上入連如依賴三列末若海郡小川村築原宮者於是中氏後石川

康正 石川左七郎 康重 石川四郎 正休 石川又四郎 大神君奉仕

康長 石川修理亮 康利 石川長左衛門

親康 石川左兵衛尉親忠卿也 諱之字賜之為長臣 康定 石川三郎四郎右三人櫻井信定組之同崎ヲ討死

忠輔 石川大夫 清兼 安藝守諱字揚之大袖君御降延自清兼 葵月御役殺之

敷正 伯耆守 同寄城代 康長 安藝守慶長十八年豊後國諱之於配所病死故此家斷絶

家成 日向守 七十六代 康勝 肥後守三石分知然兄上之諱之

康通 長門守慶長三年早世 故父家成再勅之 半三郎 兄ノ罪同

忠統 主殺殿實大久保忠隆弟也 元和八年八月召賜 康勝 諱正少弼早世

成亮 實大久保忠隆ノ五男 元和役討死 総長 播磨守

徳良 若狭守

貞當 上野阿波守

義當 右八馬左門

徳茂 近江守
當時三万石

正徳 市正

昌勝 主殿頭

昌能 日向守早世

義孝 主殿頭
當時六万石

次加藤掃部守清人

日向直成 右多總左門の意年向親徳公算成 白依又元

日向直成 白依好名八郎 世人自知大神君に奉仕御首付少録師

二万石と古身一執事職致補公守事之譽後血を傳りて世に人なり

柿本頼守 尾張守西三河守成徳公の弟也此子也世に人知如く室六

西三條教娘 三河川崎之貴女トシ如如之三條 六細川崎之室
六武田信玄之室

文祿元年頭如上人化後改修室ヲ教光院如春ト号ス 三頭如 室

嫡男光壽 教如上人相續せし尼女後室室豊信大岡三郎ス

故ニ世事ヲ勤キ因縁テ尼公諫ニ方八家臣下間来ト侍令教如之

徳有せしニ下教ス多房ト稱テ大岡三郎是ヲ許容ソ文祿

二年教如上人ヨリリケ増内之妻ニ徳有トシテ希子光昭号准如

ヲ家督お継せしニケリ徳有門信ノ女入教如之入妻トテ妻ヨリ

ニサレリ信是ヨリ表裏下稱ニ故尼公為忌ニ境内ヲ逐出

ス教如上人業ヲ好シテ善ス其後 東照官ハ依身成ニ在ス日ハ

テ榮ノ所也子トナリ恩遇存かりケリ大岡毒ハ所遠慮有ニ

大國兼後日抱ノ母子何リ係ル不義アラト再推如夫人等ニ
 教如ク入ノ持威也ト下波信干時多心信カ曰臣情按波信
 法劉ラニ其伯アケル水移流ノ如シ今一字ヲ建テ三寺ト為シ
 波ヲ聖テ佛傳子ト称シ奉平ノ本元平ル公是ク是ト後
 長六平年東ノ系ニ移テ方八町ヨ綿存塔因堂ヲ建テ上別
 妙安寺ニ安置スル所ノ祖師自作ノ尊像ヲ依釣令新堂
 本尊トス是ヨ東面本寺ト成テ諸國末寺ト徒思シ信スル者御
 味万ノ血折云是ヨ初レ而臣法義今ヨ異丁ナシ實ニ東照宮
 為沃ナリトイヘ臣正信ノ金言當レ凡矣
 ○凡者玉ハハカラス
 ○凡者玉ハハカラス

同三弥 出守

正信ノ弟ニヨリ後伯耆守ト云

藤原光秀

正時 八郎正時 正助 彦次郎
 助秀 初孫 助定 右馬助 助政 小郎 定道 八郎
 定助 彦次郎 正時 恭親公屬為長臣 正助 彦次郎 正道 八郎

助取

平八郎兄ト一所ニ云ハ未リ
 恭親公奉仕忠勝ノ祖

信正

次郎九郎
 廣孝ノ祖

正光

小八郎

俊正 上野女

正忠

彦一郎
 伊奈ノ祖

正信

佐渡守

正純

上野女十五万石ニ賜フ然レニ不義有テ
 領知被召上家断絶

正重

三弥伯耆守

正貫

豊前守
 當取四万石

正継

大隅守為家横死故断絶
 三万石ヲ綿妻三川木出ス

50

中根村

三石拾石三石三石三石

中根村

城ノ入村

三石拾石三石三石

内沃

三石三石三石

三石三石三石

中根村

